

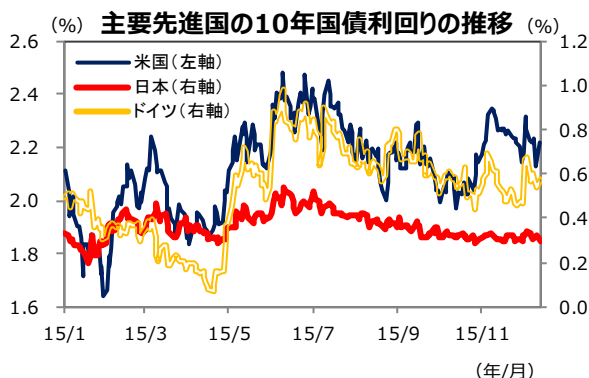
今日のトピック 2015年の振り返り（世界の債券市場）

先進国の国債利回りはほぼ横這い

ポイント1 先進国国債利回りは横這い

利上げ観測とリスク回避の綱引き

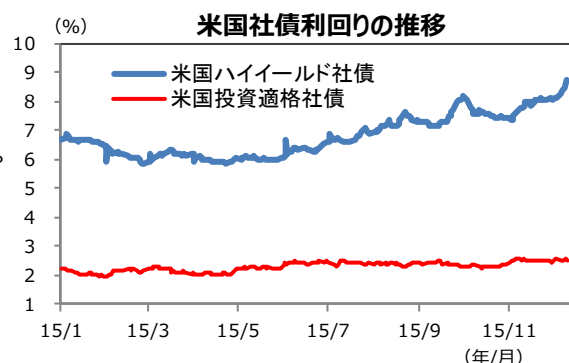
- 米国では、国内景気が回復基調を辿ったことから、早期利上げ観測が強まり、2015年の前半は債券利回りが上昇しました。しかし、年後半に入ると、景気回復が緩やかだったこと、インフレ率も低位で安定したことから、利上げペースは緩やかになるとの見方が強まり、米国債の利回りは低下しました。
- また、年半ばからの原油価格の下落、夏場の中国人民元の切り下げ、中国株の急落などによりリスク回避の動きが強まったことが、利回り低下に拍車をかけました。
- 欧州でも国債利回りは年前半に上昇しましたが、年後半はECBの追加緩和への期待感などから低下しました。



ポイント2 社債利回りは上昇

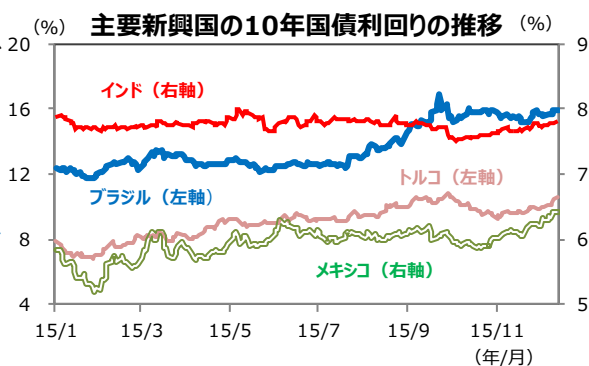
新興国国債は各国異なる動き

- 米国の利上げ観測、中国株式の急落などからリスク回避の動きが強まったうえ、原油安の関連企業への影響もあり、米国ハイイールド社債の利回りは上昇しました。
- 新興国国債の利回りは、経常収支やインフレ率の水準、地政学リスク、原油安の影響などによりまちまちでした。そのなかでインド国債はインフレの安定などから、利回りが極めて安定的な推移となりました。



今後の展開 国債利回りは緩やかな上昇へ

- 米国が利上げ局面に入ることから、主要国の国債利回りには上昇圧力がかかると予想されます。ただ、利上げのペースは緩やかなものになる公算が大きく、利回りの上昇も緩慢なものになると考えられます。
- 財政に不安のある新興国では、通貨の動向と合わせて国債利回りの急上昇などに注意する必要があります。



(注) データ期間は2015年1月2日～2015年12月14日。ただし、社債利回りは12月11日まで。米国ハイイールド社債：BofA Merrill Lynch・米ハイイールド・マスター II・インデックス、米国投資適格社債：パークレイズ・米国社債インデックス。

(出所) Bloomberg L.P.、BofA Merrill Lynch、パークレイズのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2015年12月7日 米国の雇用統計（2015年11月）
2015年12月1日 2016年の「FOMCメンバー」はタカ派寄り？（米国）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。